

聖書箇所：ルカ14：15～27

タイトル：二つの招き

テーマ：神の招きは二つある。「救い」への招きと、救われた者に対する「キリストの弟子」への招きである。さらに「キリストの弟子」になるという招きに応えようとする者が、越えるべき二つのハードルについて考えてみよう。救われることとキリストの弟子になることの違いを明確に自覚し、もう一度、救われた者の生き方について考えてみよう。

はじめに：

1. 「救い」への招き
  - ①招きに応える人
  - ②招きを断る人
2. 「救い」への招きに応えた人に差し出される「キリストの弟子」への招き
3. 弟子への招きに応じた人が、越えるべき二つのハードルとその意味
  - ①14：26
  - ②14：27
4. 結論と適用

本論：

文脈の確認（今日の箇所の前後の状況）

- ・とき；ある安息日
- ・場所；パリサイ派のある指導者の家
- ・状況：イエスは食事に招かれている。

そこで、イエスは水腫にかかっている人をいやされた。

婚礼の披露宴に招かれた時、祝宴を催す場合の心構えについて。

神の国で食事する人は何と幸いか、との発言を受けて。

#### 1. 「救い」への招き

\*たとえ話（盛大な宴会を催した主人と招待客）

\*神は、天の御国の宴席にすべての人を招いておられる。

- ・はじめに招かれた人——イスラエル人
- ・次に招かれた人——イスラエルの中では、同胞として扱われず見下されていた人々
- ・さらに招かれた人——異邦人（街道や垣根のところにいる人）

##### ①招きに応える人

## ②招きを断る人

### 2. 「救い」への招きに応えた人に差し出される「弟子」への招き

\*先ほどの話のあと、イエスについてきたおおぜいの人に向かってのイエスのことば。

### 3. 弟子への招きに応じようとする人が越えるべき二つのハードルとその意味

① 14 : 26 何を優先させるか。何を選び取るか。

② 14 : 27 「自分の十字架を負ってイエスに従う」とは何を意味するか。

\*イエスの負われた十字架

\*私の負うべき十字架

\*自分の十字架を負ったキリストの弟子たち

・パウロ ピリピ 3 : 8

・ペテロ I ペテロ 4 : 12 ~ 14、16

・ヤコブ ヤコブ 1 : 2, 3

・マタイ マタイ 9 : 9、ルカ 5 : 27 ~ 29

\*イエスに従いたいと言ったのになし得なかった人たち

・ルカ 9 : 57 ~ 62

### 4. 結論と適用

\*私たちはキリストの弟子になることを真剣に願っているか。

\*私たちがキリストの弟子となろうとするとき、それを妨げるものは何か。

\*あなたはキリストの弟子になりたいですか。